

会話談話から見る概念メタファー表現《人間は植物》

——中国語の四字熟語を中心に——

銭 秀 双

1. はじめに

物事が身体部分に喩えられることは森 (2012) で述べられている。

喩えは物事を理解させるために重要な言語技術である。我々にとって最も身近な存在である身体の言葉を使って様々な事物を表現していることなどもその例といってよい。

森 (2012:4)

森 (2012) で挙げられている具体例を以下の【表1】にまとめる。

【表1】物事を身体部分で喩えている表現例

身体部分	日本語表現
頭	釘の頭
顔	チームの顔
目	台風の目
耳	パンの耳
腕	大臣の右腕
足	テーブルの足

上述の身体部分に関する日本語表現は実際の生活で使われているし、イメージ的にも想像できる。特に印象深いのは、日本のブランドである山崎製パン会社の、食パンの広告文「耳まで美味しい」である。これは森 (2012) が述べているように、食パンのふちのこんがり焼けた部分 (パン

のまわり)を人間の身体部分である「耳」(人間の体のまわり)に置き換え、その部分もおいしいことを指しているのである。

これを参考に、中国語の場合を考えてみた。中国語の場合、〈床头〉「ベッドの頭」、〈床肚〉「ベッドのお腹」、〈桌肚〉「テーブルのお腹」、〈桌腿〉「テーブルの足」、〈针眼〉「針の目」、〈门把手〉「ドアの取っ手」などの表現は日常でよく使われている。これらは日本語表現と共通する点もあれば、相違する点もある。共通点として、「テーブルの足」、「取っ手」という表現がある。一方、〈床肚〉「ベッドのお腹」、〈桌肚〉「テーブルのお腹」などの言い方について、日本語ではあまり見られず、中国語のほうがより自然である。これはベッドやテーブルの下のスペースを指している。

日中間わずに物事を身体部分に関する言葉で表現することは、人々に親近感を与えるうえにイメージ的にも印象深くなる。なぜなら、身体部分は人間を構成する上でも不可欠なものだからである。上述の各種の表現をさらに言えば、物事を「人間/人間の一部分」に喩えていると言ってもよいだろう。用例を再び見てみよう。「ベッド」、「テーブル」などの家具の具体的な部位を「人間の頭」、「人間のお腹」に喩えており、メタファーの視点から考えれば、《家具は人間/人間の一部分》と言い換えられる。つまり、《アイディアは人》、《恋愛/愛は病人》、《インフレは人》、《機械は人間》、《植物は人間》、《動物は人間》、《組織は生命体》のような《～は人間/人》¹が単純にメタファーになりうるのみならず、明らかにメタファー体系に属する「擬人」²にもなると考えられる。

一方、鍋島(2011)では、《アイディアは植物》、《因果は植物/植物の生長》、《人間/人は植物》、《問題は植物》など、《～は植物》が表現例として数多く取り上げられている。物事を表すのに、人間で喩えるだけでなく、植物で喩える場面もよくあるということである。

後でも述べるが、いずれにせよ、これまでの研究は言葉の表現特性に注

¹ 《～は人間/人》に関する用例は、鍋島弘治郎(2011)『日本語のメタファー』による。

² 鍋島(2011:152)によれば、人間以外の存在を人間のように見立てることを「擬人法」または「擬人化」と見なす。

目することが多く、表現の応用実態は明白にされていないところが多い。本稿の主眼は人間を表す植物に関する四字熟語を収集し、分析したうえで、それらの応用場面や応用状況を確認していくことである。

なお、本節以降の構成は以下となる。

第2節では概念メタファーに関する理論的背景を見ていく。第3節では、人間が植物に喩えられる先行研究を取り上げる。それから、先行研究を踏まえたうえでの問題提起と本稿の研究目的を第4節で述べる。第5節は本稿の調査に入る。まとめとして第6節を付す。

2. 概念メタファーの定義づけ

概念メタファーに関する研究は1980年代頃から世界に広がってきた。概念メタファーの定義説明について研究者によって多少異なるが、ほとんどはジョージ・レイコフ&マーク・ジョンソン (1980) が基礎である。

本稿では、まず、笠貫 (2013) を見てみよう。

レイコフ&ジョンソン (1980) は、メタファーを概念レベルの問題として捉えた点で、それまでの伝統的な見方とは大きく異なる。すなわち、思考や行動の基盤ともなる我々の概念体系そのものがメタファー的であり、言語表現に見られるメタファーはその反映であるという見方である。ゆえに、メタファーは単なる修辭的表現ではなく、日常的な言語使用に見られるものであり、メタファー的な概念体系に根ざして一貫性のある表現が生み出されることになる。概念体系としてのメタファーは「概念メタファー (conceptual metaphor)」と呼ばれ、「AはBである (A IS B)」の形で示される。(笠貫2013:56)³

また、鍋島 (2011) では、「概念メタファー」という用語の概念は出されていないが、そのかわりに、「広義のメタファー」と「狭義のメタ

³ 出典: 笠貫 葉子 (2013) 「メタファー」 森雄一・高橋英光 (編) 『認知言語学基礎から最前線へ』 くろしお出版社 東京

ファー」が提言され、具体的に以下のようなことが書かれている。

メタファーという用語には、広義のメタファー（比喩全般）と狭義のメタファー（隠喩）がある。広義のメタファーは、「レトリック」や「修辞」という語とほぼ同義で「字義通りではない」という意味で使用される。

本書では狭義のメタファー（隠喩）を対象とし、メタファーという用語は特に明示しない限り狭義の意味で用いるものとする。

（鍋島2011:001）

鍋島（2011）は「明日の光を浴びながら、振り返らずにそのまま行こう」という用例をあげた。この表現の説明について、鍋島（2011）には、「明日の光というのはどこから降り注いでいるのだろうか。また、振り返ると自分の後ろには何があるのだろうか。このような質問をすると、十中八九、光は前から注いでおり、振り返る先には過去がある、という答えが返ってくる。このような解説は文中にまったく表れていないにもかかわらず、ほとんどの人が共通した心像（イメージ）を頭の中に描けたのである。（中略）言語表現に表れていない内容を推量する推論の研究は、メタファー研究の重要な一部を構成している。」と書かれている。

前述のように、鍋島（2011）では、「概念メタファー」という用語ははっきりと出されていないにもかかわらず、言語表現に対して推量する過程がおそらく笠貫（2013）の観点と一致していると考えられる。また、「メタファー研究の重要な一部を構成している」と述べている。これにより、「狭義のメタファー」に対する推論の研究は、「概念メタファー研究」の定義に等しいと言えよう。

本稿では、このような単発ではなく、体系的に思考や推量が含まれる言語の論証及び言語の研究を「概念メタファー研究」とする。この研究に基づいた言語表現を「概念メタファー」と呼ぶことにする。

3. 先行研究

3.1 英語文献

本節では、第1節で述べたように、人間を表す植物に関する研究と表現

例を見ていく。

概念メタファー研究の先駆と見なされている Lakoff and Jonson (1980)⁴、Lakoff and Turner (1989) は、《Ideas Are Plants》(アイディアは植物/考えは植物である)、《People Are Plants》(人は植物) という概念メタファーを提言している。具体的に言えば、Lakoff and Johnson (1980) は、「人間/人間の考え」を表すのに、植物の生長に関わる *fruition*、*bud*、*come to full flower*、*seed*、*plant*、*fertile* などの言葉が用いられることから、《Ideas Are Plants》(考えは植物である) という概念メタファーを論じている。また、Lakoff and Turner (1989) において、植物の一年間の生長の段階 (*a young sprout*、*in full bloom*、*withering a way* などの言葉) は、人生の各段階と対応し、人間を植物 (ないしその一部) とみなし、人生を植物の生命の周期と結びつけるような形の隠喩を用いることがあると述べている。

上の英語表現である《Ideas Are Plants》(アイディアは植物/考えは植物である) と《People Are Plants》(人は植物) は、人間 (人間の営み) が植物に喩えられることを意味している。

3.2 日本語文献

また、森 (1996: 56) によると、上代日本語における「根の下延へ」、「草木が繁っている」という植物に関する表現で人間の「心」と「思い」を表している。人の心理的な活動はもちろん人間の営みの一種であり、このような人間の営みも植物に関する概念メタファー表現に転じている。

さらに、初山 (2006a) では、現代日本語の表現分析を通して、「人間 (の営み) を植物 (の営み)」を通して捉える (植物としての人間) という概念メタファーが存在することが提言されている。かつ、この概念メタファーの下位レベルのメタファーとして、植物の生長過程における各段階 (を表す言葉) が、「人間」に関する以下の

⁴ 和訳のレイコフ・ジョンソン (1980) とレイコフ&ジョンソン (1980) と同じ文献を指す。

- (一) 何かを達成すること・成果をあげることを目的とした人間の営み
- (二) 人間の一生の諸段階
- (三) 女性の生長・成熟の過程
- (四) 心・精神の状態の変化の過程

という4つの「人間（の営み）」に用いられ、いずれの場合も基本的に「植物の生長過程」の諸段階（の一部）との間に対応関係が認められると述べている。

上述の日英の文献に加え、銭（2019）では、植物の生長過程の一部である「種」/＜种子＞、「開花」/＜开花＞に対する対照考察を行った。そして、それらの間に些細な差が存在していることを論じた。「種」＜种子＞に対する捉え方について、日本語で小さい種が、物事の発端（原因）を表すことは普通であるが、中国語の場合、現実的に能力のある人をも表現できる。また、「開花」/＜开花＞の概念レベルの意味合いについて、日本語では「プラスの描写」のみを持つが、中国語の場合、「プラスの描写」を持つのみならず、「マイナスの描写」もあり得る。このような中国語における＜种子＞または＜开花＞の意味的な生産性は日本語より高いことが確認できた。

日中対照考察のほかに、日本語における植物に関するメタファー表現に対して、中国人日本語学習者がどのように理解しているかについては銭（2020）で述べた。

銭（2020）では、中国人若年層日本語教師が日本語メタファー表現に対する解釈（理解）のアンケート調査を通じ、中国人日本語教師のメタフォリカル・コンピテンス及びメタファー表現理解に影響を及ぼす原因を考察した。具体的に、「壁の花」、「雑草」、「新米」、「桃李」、「同期の桜」、「濡れ落ち葉」、「古株」、「大和撫子」という8つの日本語メタファー表現の中国語母語話者（中国人若年層日本語教師）による理解についてアンケートの形で調査してみた。結果として、中国人若年層日本語教師のメタフォリカル・コンピテンスはそれほど高くない現状（平均正解率32.21%）であることを指摘した。また、具体例を通して、中国人日本語学習者（被験者）

によるメタファー解釈のずれ及び文脈は日本語メタファー表現理解への影響であることについて述べた。この調査での被験者は地域的に広い範囲（南京市、無錫市、蘇州市、ハルビン市、湖北省、四川省、山東省など）から集めた若年層日本語教師で、その調査結果は中国広範囲でのメタファー学習現状の反映の一つとなり、日本語学習者にとって、語に対する文化的背景知識を意識的に拡張することが重要だと述べた。

3.3 中国語文献

言うまでもなく、日英のメタファー表現と同じように、中国語の場合でも、物事が植物との関連で成り立つメタファー表現は少なくない。たとえば、中国語では、古くから<杏林>、<梨園>、<杏坛>はそれぞれ「医学」、「演劇、芸術」、「教育」のことを表している。なお、今の若者の間では、<需要多少米>がよく使われている。これを直訳すれば、「お米がいくら必要か」の意味になるが、実際には「お金がいくら必要か」と聞いているのである。これは古代中国の民衆たちはほぼ農家出身で、お米を持てば持つほど金持ちだと見なされるからである。つまり古代の中国において「お米」は「お金」と同様な役割をはたしていたわけである。何かを買う時、お金のかわりに、お米を払う時代でもあった。

また、中国語の場合でも植物に関わる表現で人間（または人間の営み）を表すことがよくある。次より植物と人間の関連で成り立つ言語表現を見てみたい。

最初に<校花>、<班草> / <校草>⁵の例を見てみよう。

<校花>は学校で最もきれいな女子学生のことで、<班草> / <校草>はクラスで或は学校で最もかっこいい男子学生の喩えである。「花」が鮮やかできれいだという特性より、女性の喩えによく使われている。それに対し、男性を喩える場合、相対的に「草」の使用頻度が高い。

さらに、羅・葛（2010）では、<中国人对植物有着深刻的感知，善于从植物身上来发现其与人类及其他事物的相似之处。因此，汉语中存在众多的植物隐喻。>と述べられている。

⁵ この2つの用例は、陳晦（2014）でも挙げられている。

(訳:「中国人は植物に対する深い認知を持っている。植物と人間の間の、または植物と他の物事との間の似ている部分(類似性)を植物の視点から見ることがよくある。そのため、中国語において、植物に関するメタファー表現がたくさん存在している。」)

こちらでは、羅・葛(2010)の一部の用例を引用する。

第一に、植物の特徴を利用して人を喩える。

<桃花>

桃の花のような美しい人

<小辣椒>

大胆で、気迫のある人

<开心果>

いつも他人を喜ばせる人

<墙头草>

日本語では二股膏藥という意味で、あちらに従ったり、こちらに従ったり、態度が一定しない人

第二に、植物を借りて、人間の外観を表現する。

<花容月貌>「美しい顔の喩え」、<艳若桃李>「美しい顔の喩え」、<樱桃小口>「美しい唇の喩え」、<杨柳细腰>「いいスタイルの喩え」、<桃花眼>「きれいな目の喩え」、<萝卜腿>「太い足の喩え」など、例として取り上げられた。

第三に、植物に関する表現で人の年齢を喩えている。

<豆蔻少女>、<花信年华>などが列挙されている。

前者は10代の少女を指し、後者は20代の女性のことを指す。

第四に、古い詩の中でも植物に関する語句を用い、人の品格を表すことがある。

例えば、<朝饮木兰之圣露兮，兮餐秋菊之落英>、<芝兰生于深林，不以无人而不芳>などの詩句は、人々の節操を固く守ることを指している。

以上、羅・葛 (2010) で取り上げられた用例を見てきた。ほかに植物と人間 (または人間の営み) と繋がっている中国語の補足例を【表2】で提示する。

【表2】中国語における植物と人間の繋がりを表す補足例

中国語表現例	日本語訳
<花痴>	男性に惚れている女性のことを指すのがほとんどである。この場合、惚れられる対象は男性と言っても「花」のように美しいと見られる。
<奇葩>	変わった人
<草根>	地位がとても低く、権力のない人
<独苗>	一人っ子、しかも男の子を指す場合が多い
<攀高枝>	金持ちや権力者の後ろに追いつく人
<朽木>	精神の腐った人間

【表2】では、概念メタファー《人は植物》の常用例を補足した。これに加え、近頃は<谢了>「枯れた」、<摆烂>「腐らす」は流行語になっている。<谢了>「枯れた」について、もともとは花などの枯れた状態を指し、この場合は、花、蕾などの植物は主語として通常の表現の中に現れてくる。最近、がっかりした気分またはやる気のない状態を指すようになった。この時は、自分自身を指すことがほとんどであるため、主語は省略される。特に若い世代の間で使われることが多い。また、<摆烂>「腐らす」は、新鮮な野菜、花などをずっと置いておくと、腐ってしまうということから、人間の怠ける状態を表している。

4. 問題提起と研究目的 (対象)

4.1 問題提起

3節の先行研究で見たように、植物の含まれる言葉を用いて物事を喩えていることが多くあり、植物と深く繋がっていることを反映している。なかでも人間と植物の繋がりはいろいろな場面で見られると日英中の文献によって指摘されている。

一方、それらの多くは概念メタファー《人間は植物》の下位カテゴリー表現 (具体例の有り様) に対する分析や理解にとどまっている。《人間は

植物》に関する表現例の応用状況について、明らかにされていないところがまだ多い。それをより一層追究する必要があると考えられる。

4.2 研究目的（対象）

《人間は植物》に関する下位概念メタファーの具体例が会話談話のどの場面で応用されるか、またどのぐらいの応用頻度かを確認していくことが本稿の研究目的である。

なお、本稿の考察対象を会話談話中の植物に関する四字熟語に絞っておく。四字熟語といえば、漢語においての特有の言語現象の一種となり、表現上は短くて濃縮されているが、意味上は長い文に負けないほど高度な表現手段となり、覚えやすく人々に様々なイメージを与える。また、四字熟語は中国でも日本でも使われている。飯間浩明（2018）によれば、日本では「四字熟語」という用語は戦後に広まった新語のようで、「四字熟語」という用語で呼ばれることばには、古風な語も、新語も、教訓的なものも、そうでないものも含まれる。それらの共通点は、「日常生活を送る上で、覚えておくといい四字の漢字熟語」（飯間浩明（2018））ということになる。

多数の四字熟語の中で、植物が含まれる四字熟語表現も少なくない。その中の一部は、人間とつながりのある植物四字熟語となり、つまり、植物に関する四字熟語で人間（人間の営み）を表しているのである。なお、四字熟語は普段単独で出ることではなく、前後文脈が前提として、その中から意識的に出されるのがほとんどである。

そのため、本稿では人間（人間の営み）を表す植物の四字熟語表現が会話談話においてどのように使用されているかやどのぐらいの使用頻度になるかを確かめてみたい。

5. 考察

5.1 データの扱い

人間を喩えるのに用いられる概念メタファー《人間は植物》の具体例は「一般表現」、「慣用表現」、「俗語表現」など、様々な形からなる。

前述のように、本稿では、その形の1つである「四字熟語」(場合によって、四字熟語は「成句」とも言われる)に注目することにする。四字熟語は日中両国の国民にとって、なじみのある言葉表現の1つであり、文章の中はもちろん、会話談話でもよく使われている。小松原(2016)は、「言語表現の意味を詳しく観察していくほど、言語使用のコンテクストに関係しない表現などというものは無いように思われる」と書いている。四字熟語も同じように、独自で現れる場合(非常に少ないと思われる)とコンテクストのある(例えば会話談話の中に出現すること)場合、言語表現上の理解や効果は異なると考えられる。本稿はコンテクストの役割を重視し、四字熟語の例を挙げるとともに、それらを含む具体的な会話談話例を考察対象とする。

本稿で取り上げるデータの出处について、まず、人間(または人間の営み)を喩えている植物四字熟語をランダムに15個列举する。それから、補足として、中国語の植物四字熟語(成句)に関する参考書『成语有意思・植物世界』、『成语里的博物学・植物』をもとに、重複例を除き、上述の2冊の本の中で取り上げられた人間とかかわりのある植物四字熟語をすべて抽出する。

5.2 考察方法

まず、5.1で述べたように、人間(人間の営み)を表す植物四字熟語を46個収集した。それから、関連データに基づき、中国語の検索コーパス『北語漢語語料庫』<http://bcc.blcu.edu.cn/>を用い、会話談話例を検索してみる。『北語漢語語料庫』の略称は「BCC」であり、北京言語大学教授団より開発され、現段階における中国の社会言語生活を反映している体系的で大規模な検索コーパスであると言われている。『北語漢語語料庫』の使用紹介によれば、本コーパスの収録字数は約95億字で、「文学」、「新聞」、「会話」、「古語」など多領域にわたる検索コーパスである。

このコーパスに接続すれば、上述の各領域の検索へアクセスできる。したがって、本稿は植物に関する四字熟語が会話談話中の応用状況を把握することが目的であるため、『北語漢語語料庫』コーパスの検索領域(項目)の「会話」に注目する。「会話」領域(項目)検索欄に調べたい四字熟語

を入力すれば、植物四字熟語を含む会話談話例が存在している場合、例文が出てくるはずである。かつ、それらの会話談話例の中で、本稿の研究方向と一致する人間（人間の営み）を喩えている例を用例として抽出することができる。これにより、会話談話中の植物四字熟語の使用状況や使用頻度が把握できるようになる。

5.3 考察過程

以下、『北語漢語語料庫』検索コーパスを使った考察情報を【表3】に整理する。

【表3】植物四字熟語に関する会話談話の表現例

中国語四字熟語	主要意味訳	コーパスによる代表例（中国語）
背靠大树	有権者に頼ること	なし
残花败柳	年を取って元氣のない人、女性を指すことが多い	满脸风尘， 残花败柳 ，腹黑的女人。
花季雨季	16、17歳の少年少女	惋惜， 花季雨季 の年齢，那么美丽，可惜。
黄花闺女	青春で若い女の子	哪个 黄花闺女 被你骗上了。
金枝玉叶	身分が高い人	なし
开枝散叶	家族繁栄のために、子供を多く生むこと	你早已不关心我，还想我为皇家 开枝散叶 。
落叶归根	年を取って、実家に戻ることに	上海是个让人待了就想 落叶归根 的地方。
木头桩子	反応が遅い人	哎呀， 木头桩子 ，生日快乐，早生贵子。
三寸金莲	布に絞られて、小さくされた足	那是女人的 三寸金莲 啊。
艳若桃李	外観が美しいこと	艳若桃李 ，冷若冰霜，嗯嗯，就像我。
玉树临风	カッコ良い男性のこと	没事，没事，你高，就是八十也 玉树临风 。
枝繁叶茂	家族の人数が多いこと	你家还真多小孩，必须必须 枝繁叶茂 。
指桑骂槐	甲を叱るつもりなのに、わざと乙を叱る	指桑骂槐 ，说谁呢。
煮豆燃萁	男兄弟互いに殺し合ってしまうこと	なし
树大招风	あまりにも目立つ人は恨みを招く	树大招风 ，我们其实是该活啦。
不辨菽麦	人間の愚かさ	なし
春华秋实	品行方正で自律できる人や人の努力の結晶	なし
寸草春晖★	親に恩返ししようとしても僅かなことしかできない	なし
椿萱并茂★	両親が健康に生活していること	なし
豆蔻年华	13、14歳の少女	豆蔻年华 ，又老了一岁。
焚芝锄蕙	有能な人が禍にあうこと	なし
红豆相思	男女が慕いあうこと	红豆相思 ，相思也是一种情怀。
红杏出墙	女性の不倫のことを指す場合が多い	你不要趁我不在就各种 红杏出墙 。
青枝绿叶	元氣満々で若い人	青枝绿叶 的青春，总有一天逝去。
青出于蓝	生徒（後輩）が先生（先輩）より優れること	师妹更加厉害， 青出于蓝 。

桑榆暮里	人間の年を取ったこと	なし
松萝共倚	夫婦間仲がいいこと	なし
水性杨花	女性の軽はずみなこと	なし
揠苗助长	むりやり子供を成長させること	走路都没学会就想要飞? 揠苗助长…
游丝飞絮	自分の考えや思考を持たない人	なし
苍松翠柏	品格ある人	なし
李代桃僵	他人の罪を着ること	なし
闭月羞花★	女性の美しい容貌	绝世容颜~, 沉鱼落雁, 闭月羞花。
出水芙蓉	美しい女性のこと	宝贝长这么大了呀, 越来越出水芙蓉啦。
含苞待放	未成年の少女のこと	16岁便是那含苞待放的玉兰, 有那么多期待
花枝招展	女性の派手な身振り	打扮的花枝招展。
空谷幽兰	品格が備わること	可惜我是一朵真实的空谷幽兰。
梨花带雨	女性の可愛さや美しさ	梨花带雨, 她真的太好看了。
浓桃艳李	容貌がよく、元気のある人	なし
草木皆兵★	人があれこれを疑うこと	なし
芒刺在背	人の恐ろしい状態	なし
萍水相逢★	人々の偶然の出会い	我们只是萍水相逢。
香草美人	品格が備わる人	なし
藕断丝连	男女間の絶えない感情や連絡	我们要互相亏欠, 我们要藕断丝连。
青梅竹马	幼なじみ	因为我和他青梅竹马。
投桃报李★	友人間の付き合い	你若投桃报李, 我会十分感激。
計 46 個		28/46

(★は、後述のように日本語においても見られる例)

上の46個の植物四字熟語（人間または人間の営みを表す）では、様々な例を見ることができる。

①【表3】の植物に関する四字熟語は「人間」または「人間の営み」を表すというものの、人間の営みより直接人間（外貌・特徴）を表すほうが比較的多い。まずは、人間（外貌・特徴）を表す例について述べる。【表3】の中では、男性よりも女性を喩えるケースがより多い。男性を表す植物四字熟語は〈玉树临风〉のみである。〈玉树临风〉は「カッコ良い男性」のことを指す。

反対に、女性を表すのは〈残花败柳〉、〈黄花闺女〉、〈三寸金莲〉、〈艳若桃李〉、〈豆蔻年华〉、〈红杏出墙〉、〈水性杨花〉、〈闭月羞花〉、〈出水芙蓉〉、〈含苞待放〉、〈花枝招展〉、〈梨花带雨〉、〈浓桃艳李〉と、合計13個ある。これらの13個の植物四字熟語をさらに検討すれば、「女性の年齢」、「女性

に対するプラス評価]、「女性に対するマイナス評価」という3種類に分類できる。

「女性の年齢」:〈黄花闺女〉、〈豆蔻年华〉、〈含苞待放〉3つ全部若い女性のことを表す。

「女性に対するプラス評価」:〈三寸金蓮〉、〈艳若桃李〉、〈闭月羞花〉、〈出水芙蓉〉、〈梨花带雨〉、〈浓桃艳李〉この6つの植物四字熟語について、〈三寸金蓮〉は女性の小さな足に対する褒めた言い方であり、ほかの植物四字熟語は女性の美しい容貌のことを指す。

「女性に対するマイナス評価」:〈残花败柳〉、〈红杏出墙〉、〈水性杨花〉、〈花枝招展〉は女性に対するマイナス評価を持ち、〈残花败柳〉は「女性の年を取って、元気のない状態」を表す；〈红杏出墙〉、〈水性杨花〉は、女性の不倫、軽はずみの喩えであり、〈花枝招展〉は女性の派手すぎる身なりを表す。

男女（容貌・特徴）のいずれも表すことができる植物四字熟語は16個ある。これは上述と同じように、「男女の年齢」、「男女に対するプラス評価」、「男女に対するマイナス評価」の3種類に分類することができる。

「男女の年齢」:〈花季雨季〉、〈青枝绿叶〉、〈桑榆暮里〉、〈青梅竹马〉について、年齢順に言えば、〈青梅竹马〉は幼い子のことをいう。〈花季雨季〉は16、17歳の少年少女のことを指す。また、青年のような若い人は〈青枝绿叶〉と呼ばれる。最後に、年を取った人のことは〈桑榆暮里〉という。

「男女に対するプラス評価」:〈金枝玉叶〉、〈枝繁叶茂〉、〈春华秋实〉、〈青出于蓝〉、〈松萝共倚〉、〈苍松翠柏〉、〈空谷幽兰〉、〈香草美人〉という植物四字熟語は性別を問わず、人々の良さを喩える。例えば、人々の品格についての喩えでは、〈春华秋实〉、〈苍松翠柏〉、〈空谷幽兰〉、〈香草美人〉が見られる。人の身分の高いことを〈金枝玉叶〉で表す。また、家族の人数が多く、賑やかなことを〈枝繁叶茂〉といい、夫婦間仲がいいことを〈松萝共倚〉という。〈青出于蓝〉は弟子や後輩が優れていることの喩えである。

「男女に対するマイナス評価」:〈木头桩子〉、〈不辨菽麦〉、〈游丝飞絮〉、〈芒刺在背〉は反応が遅い、正しい判断を持たないなど、人々に対するマ

イナス評価となる。

以上、人間（外貌・特徴）を表す30個の植物四字熟語の比喩性や特徴を見てきた。しかし、【表3】で示したように、取り上げた植物四字熟語はいずれも人間（人間の営み）を表すことができるが、すべての植物四字熟語が会話談話に用いられているわけではない。人間（外貌・特徴）を表す30個の植物四字熟語の中で、コーパス検索で会話談話例が付くのは19例ある。会話談話例の付く表現を詳しく見ていこう。

男性を表す唯一の植物四字熟語の会話談話例は〈没事，没事，你高，就是八十也**玉树临风**。〉「訳：平気、平気、君は背が高いから、80歳になってもカッコいいよ」である。

また、「女性」を喩える植物四字熟語が会話談話に应用されている状況は以下の通りである。

「女性の年齢」に関する会話談話例

〈哪个**黄花闺女**被你骗上了。〉「訳：知らない若い女の子が君に騙された。」

〈**豆蔻年华**，又老了一岁。〉「訳：13、14歳の少女、また年が1つ上がった。」

〈16岁便是那**含苞待放**的玉兰，有那么多期待〉「訳：16歳、白木連の蕾だ、期待される。」

「女性に対するプラス評価」に関する会話談話例

〈那是女人的**三寸金莲**啊。〉「訳：それは女の小さな足だ。」

〈**艳若桃李**，冷若冰霜，嗯嗯，就像我。〉「訳：美しいが、冷たい、そう、私はそうである。」

〈绝世容颜～，沉鱼落雁，**闭月羞花**。〉「訳：めったにない美しい容貌だ。」

〈宝贝长这么大了呀，越来越**出水芙蓉**啦。〉「訳：こんなに大きくなったか、ますますきれいになるね。」

〈**梨花带雨**，她真的太好看了。〉「訳：彼女は本当にきれいだ。」

「女性に対するマイナス評価」に関する会話談話例

〈满脸风尘，**残花败柳**，腹黑的女人。〉「訳：全く元氣なく腹黒い女だ。」

〈你不要趁我不在就各种**红杏出墙**。〉「訳：私のいない間に不倫なんかしないで。」

〈打扮的**花枝招展**。〉「訳:あまりに派手すぎた身なりだ。」

なお、以下、男女のいずれも表せる植物四字熟語の会話談話例をあげる。

「男女の年齢」に関する会話談話例

〈惋惜, **花季雨季**の年齢, 那么美丽, 可惜。〉「訳:残念、16、17歳であんなにきれいなのに、残念。」

〈**青枝绿叶**的青春, 总有一天逝去。〉「訳:青春はいつの間にか消えてゆく。」

〈因为我和他**青梅竹马**。〉「訳:彼と幼なじみだ。」

「男女に対するプラス評価」に関する会話談話例

〈你家还真多小孩, 必须必须**枝繁叶茂**。〉「訳:お子さんが多いね。絶対に繁盛になれる。」

〈师妹更加厉害, **青出于蓝**。〉「訳:後輩が先輩よりもっと強い。」

〈可惜我是一朵真实的**空谷幽兰**。〉「訳:残念ながら、私は本当に品格がよい人だ。」

「男女に対するマイナス評価」に関する会話談話例

〈哎呀, **木头桩子**, 生日快乐, 早生贵子。〉「訳:あっ、大木、誕生日おめでとう、早く子供を生め。」

②①に対し、人間の営みや人間の行為を表す表現は〈背靠大树〉、〈开枝散叶〉、〈落叶归根〉、〈指桑骂槐〉、〈煮豆燃箕〉、〈树大招风〉、〈寸草春晖〉、〈椿萱并茂〉、〈焚芝锄蕙〉、〈红豆相思〉、〈揠苗助长〉、〈李代桃僵〉、〈草木皆兵〉、〈萍水相逢〉、〈藕断丝连〉、〈投桃报李〉の合計16個である。さきほど述べたように、コーパスの検索により、すべての植物四字熟語が比喻として会話談話に使われているわけではない。こちらでは、人間の営みや人間の行為を表す16個の四字熟語のうちの、会話談話例の付かない7個を見てみよう。例えば、権力者に頼ることは〈背靠大树〉といい、この場合〈大树〉は「権力のある人」の喩えである。次の〈煮豆燃箕〉は「男兄弟互いに殺し合ってしまうこと」の喩えである。また、親孝行と関わりのある四字熟語には〈寸草春晖〉と〈椿萱并茂〉があり、前者は子供の僅かな力〈寸草〉と親の無限の愛〈春晖〉と鮮明な対比になっている。後者の

四字熟語は両親の体が健康であることを喩えている。さらに、有能な人は「マンネンタケ」などに喩えられ、その有能な人が禍に遭うことを〈焚芝鋤蕙〉という。次に、〈李代桃僵〉は他人の罪を着ることを喩えである。最後に、人があれこれを疑い、草木まで「敵」だと見なされることを〈草木皆兵〉という。以上はコーパス検索で会話談話例の付かない四字熟語であるが、人の営みを確実に表せるし、これらのような四字熟語は実際の日常会話でどのような存在であるかを後に検証する必要があると考える。

次に、人間の営みを表せる上にコーパス検索で会話談話例の付く四字熟語の一部も見ていこう。例えば、〈落叶归根〉に関する会話談話表現は〈上海是个让人待了就想落叶归根的地方。〉「訳:上海は人に実家に戻りたい気持ちを与える都市だ」となり、上海のような大都市で生活や仕事をしている人のストレスを反映し、どうしても実家に戻りたい、という気持ちを表している。また、〈树大招风〉〈树大招风, 我们其实是活该啦。〉「訳:あまりにも目立つ人は恨みを招く、これは私たちの自業自得だ」という会話談話は自分たちの目立った行動などを反省している。さらに、〈揠苗助长〉〈走路都没学会就想要飞? 揠苗助长…〉「訳:歩くのもまだできないのに、飛ぶまで考えてるの、むりやり成長させるのだ」などがあげられる。

【表3】は中国語における植物に関する四字熟語が会話談話のなかでどのように応用されているかも示している。しかしながら、『北語漢語語料庫』<http://bcc.blcu.edu.cn/>の検索結果を見る限り、すべての植物四字熟語は会話談話に用いられているわけではない。本稿で取り上げた46個の植物四字熟語をさらに2つのグループに分けたいと思う。一つ目は、人間（人間の営み）を喩えるのにコーパスの検索で会話談話用例が見られるパターンである（Aグループ、28個）。該当する用例文はそれぞれの四字熟語の右側にすでに付け加えた。四字熟語自体の意味解釈はもちろん、この28個の会話談話例も様々な面から人間（人間の営み）を表している。

これに対し、二つ目は、残りの18個（Bグループ）の四字熟語である。〈春华秋实〉を除き、ほかの17個は、該当する会話談話用例が1例も見当たらなかった。それらをコーパスで検索してみたところ、会話談話用例数はいずれも「0」であった。なお、四字熟語〈春华秋实〉は検索したところ、それを含む例文は少し出てくるが、人間（人の営み）を喩える比喩性が見

られないため、Bグループに入れたいと考える。【表3】では、区別するためにコーパス『北語漢語語料庫』<http://bcc.blcu.edu.cn/>に〈背靠大树〉、〈金枝玉叶〉、〈煮豆燃萁〉など植物に関する四字熟語の会話談話例が収録されていないものを「なし」と記した。48個の四字熟語の中で、コーパスで会話談話例が見られないものが18個もあった。かなり大きな割合だと考えられる。この現象に対し、本稿でBグループに属する四字熟語は実際の日常会話で使われているかをさらにアンケート調査を通して検証してみた。

このアンケート調査での有効回答は合計55件であった。20代から50代までの男女（20人、35人）にアンケートの協力をしてもらい、Bグループに属する18個の四字熟語に対する「理解程度」や日常会話での「使用頻度」の調査を行った。アンケート調査の結果は次の【表4】で示す。

【表4】が示すように、実際のアンケート調査をしてみたところ、確かにこれらの四字熟語の応用頻度はそれほど高くはないことが分かる。時々使われている四字熟語（〈草木皆兵〉、〈背靠大树〉、〈金枝玉叶〉など）はある程度あるが、ほとんど使われていない四字熟語（〈焚芝锄蕙〉、〈椿萱并茂〉、〈松萝共倚〉など）もかなり存在し、ほぼ半数以上を占めている。使用頻度が低い四字熟語について、その主な原因は使用者が当四字熟語に対する理解の程度が低いいため、その使い方や使用場面がよくわからないことである。

以上、中国語四字熟語の会話談話の中での応用状況を確認してきた。

これに対し、既存の中国語植物四字熟語（【表3】）の中で、日本語の場合でも使われているか否かを『新明解四字熟語辞典』を利用して調べてみた。48個の植物四字熟語の中で、〈寸草春晖〉、〈椿萱并茂〉、〈闭月羞花〉、〈草木皆兵〉、〈萍水相逢〉、〈投桃报李〉などの中国語の四字熟語が日本語の四字熟語辞典にも入っていることがわかった。日本語四字熟語辞典『新明解四字熟語辞典』においても見られる四字熟語に「★」をつけている。

また、日本語における植物に関する四字熟語表現をウェブ上の<https://www.weblio.jp/>を参考にして収集した。該当する用例数はそれほど多くないが、【表5】のようになる。

【表4】「Bグループ四字熟語」に対する理解や使用のアンケート調査

Bグループ 四字熟語	理解程度 (計 55)			使用頻度 (計 55)		
	よくわかる	普通	全く分からない	よく使う	時々使う	あまり使わない
背靠大树	31	21	3	2	23	30
金枝玉叶	35	19	1	3	21	31
煮豆燃萁	22	25	8	1	9	45
不辨菽麦	5	21	29	1	6	48
春华秋实	19	30	6	4	21	30
寸草春晖	15	33	7	3	11	41
椿萱并茂	3	12	40	1	2	52
焚芝锄蕙	1	9	45	1	1	53
桑榆暮里	3	16	36	1	5	49
松萝共倚	1	11	43	1	2	52
水性杨花	31	23	1	2	20	33
游丝飞絮	5	23	27	2	7	46
苍松翠柏	22	24	9	5	14	36
李代桃僵	21	22	12	4	15	36
浓桃艳李	10	27	18	1	9	45
草木皆兵	36	18	1	9	27	19
芒刺在背	26	26	3	4	19	32
香草美人	12	25	18	2	9	44

【表5】日本語四字熟語の表現例

日本語四字熟語	主要意味
金口木舌★ <small>きんこうぼくぜつ</small>	言論によって社会の人々を指導する人物。
木戸御免 <small>きどごめん</small>	相撲や芝居などの興行場に、木戸銭なしで自由に入出りできること (人)。
槁木死灰★ <small>こうぼくしかい</small>	肉体は枯れた木のようにであり、心は冷たい灰のようであること。(人の)心身に生氣・活力・意欲などのないことのとえ。
羞花閉月★ <small>しゅうかひげつ</small>	容姿のすぐれて美しい女性のたとえ。中国語では、<閉月羞花>の言い方がある。
飛花落葉 <small>ひめつらくよう</small>	人生のはかなさや世の無常であることのとえ。

日本語における植物に関する四字熟語表現は、以上であった。この5つの四字熟語を『日本語日常会話コーパス』chunagon.ninjal.ac.jpを利用して検索してみたところ、関連する会話談話例はなかった。なお、【表5】で「★」の付けた植物四字熟語は中国語においても見られることを指してい

る。つまり、日中両国における植物四字熟語は、それぞれ独自のものと互いに共通しているものが存在している。

6. おわりに

本稿は人間（または人間の営み）を表わす植物に関する四字熟語に注目し、それらの会話談話での実際の応用状況を確認することが目的であった。中国語では、植物に関する四字熟語は概念メタファー《人間は植物》の表現例として成り立つことが可能であるが、会話談話のコンテキストによって、ほとんど使われない場合も少なくない。また、四字熟語ごとの応用頻度がそれぞれである。さらに、日中の植物四字熟語を比較してみた。それらの独自のものと互いに共通しているものが両国間に存在していることが分かる。

参考文献

- Lakoff, G. and M. Johnson. (1980) *Metaphors We Live By*. Chicago: University of Chicago Press. (渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸 訳『レトリックと人生』(1986) 大修館書店)
- Lakoff, G. and M. Turner. (1989) *More than Cool Reason A Field Guide to Poetic Metaphor*. Chicago: University of Chicago Press. (大堀俊夫 訳『詩と認知』(1994) 紀伊國屋書店)
- 陳晦 (2014) 「植物是人」概念隐喻在汉英植物名中的投射『外国語文』30 5 81-87.
- 笠貫葉子 (2013) 「メタファー」 森雄一・高橋英光 (編) 『認知言語学基礎から最前線へ』くろしお出版社 東京
- 漢語大字典編纂処 [編] 『成語有意思・植物世界』四川辞書出版社 成都
- 小松原哲太 (2016) 『レトリックと意味の創造性 言葉逸脱と認知言語学』京都大学学術出版会 京都
- 劉曉莉 [他] (2022) 『成語里的博物学・植物』未来出版社 西安
- 羅曉燕・葛俊麗 (2010) 「植物隐喻映射下的汉英情感叙事」『浙江工业大学学报』9 1 91-96.
- 初山洋介 (2006a) 「『人間』の捉え方と言語表現 (4) —植物としての人間 (再考)—」『名古屋大学日本語・日本文化論集』13号 87-115. 名古屋大学留学生センター
- 森雄一 (1996) 「植物としての心—上代日本語における構造的メタファー」『山口明德教授還暦記念国語学論集』明治書院 東京 53-67.
- 森雄一 (2012) 『学びのエクササイズ レトリック』ひつじ書房 東京

鍋島弘治郎 (2011) 『日本語のメタファー』 くろしお出版 東京

銭秀双 (2019) 「概念メタファー ‹人間は植物› の日中対照研究」『日本認知言語学会
論文集』19巻 435-441.

銭秀双 (2020) 「中国語母語話者による日本語メタファー表現の比喩解釈」『日本語用論
学会論文集』15巻 65-72.

参考にしたコーパス

『北語漢語語料庫』 <http://bcc.blcu.edu.cn/> (2022年10月閲覧)

『日本語日常会話コーパス』 chunagon.ninjal.ac.jp (2022年10月閲覧)

参考にしたWebサイト

<https://www.weblio.jp/> (2022年9月閲覧)

参考にした辞典

飯間浩明 (2018) 『小学館 四字熟語を知る辞典』小学館 東京

三省堂編集所 [編] (1998) 『新明解四字熟語辞典』第二版 三省堂 東京